

「一口毛」  
聖徒伝 107

# 「時を逃さず 動くために」

列王記第一 1章

ソロモン王の即位

# アウトライン

## 0. イントロダクション

### I. 晩年のダビデ アドニヤの謀略

1章1～27節

### II. ソロモン王の即位 1章28～40節

### III. アドニヤの敗退 1章41～53節

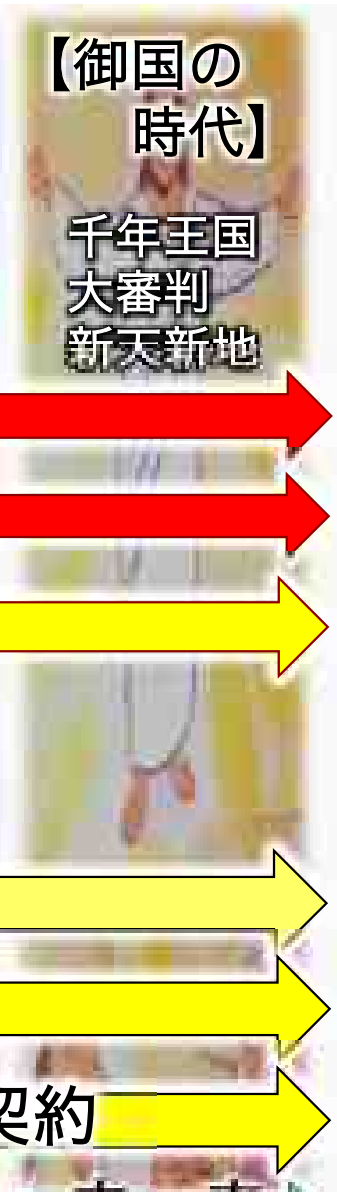
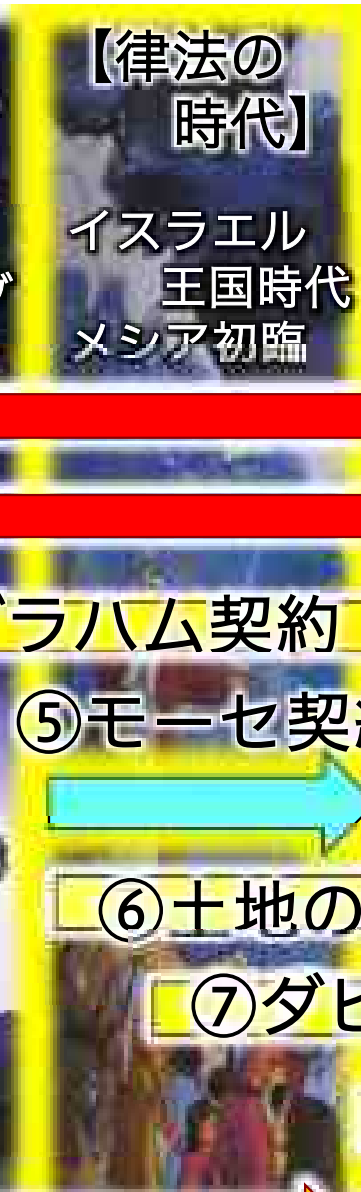
## IV. まとめと適用

時を逃さず動くために

主の御声を聴きとってしよう



神殿の丘



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

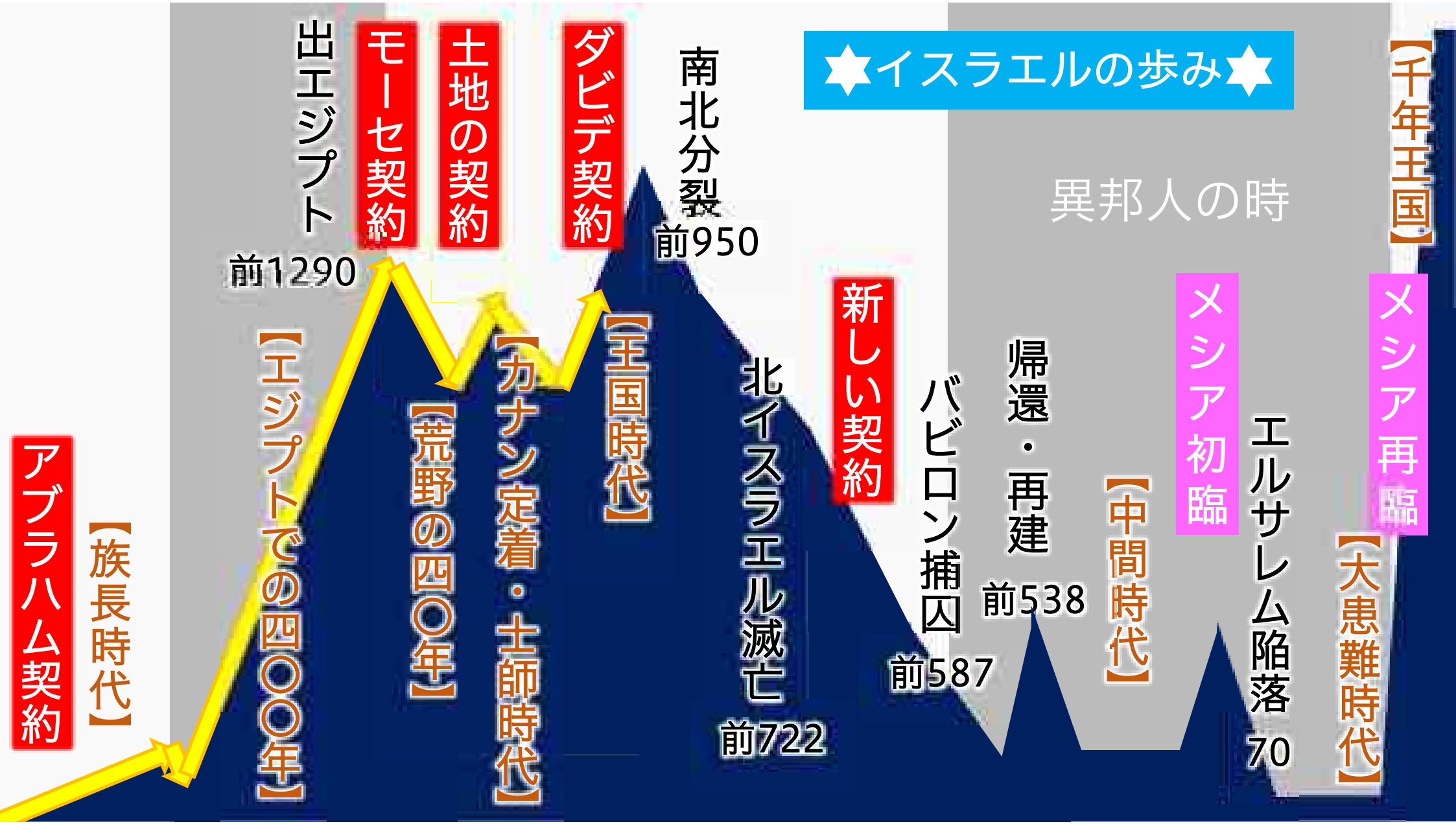
どの時代も  
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



# 列王記とは？

- 署名 …ヘブル語で、「メラヒーム(王たち)」 = 列王記
- 著者 …不明。エレミヤ？ エズラ？ エゼキエル？  
バビロン捕囚の頃の預言者か。
- 構成 …本来、第一と第二で一つの書。七十人訳で分割。  
※長過ぎるので分冊に。 羊皮紙➡パピルス紙に変更？  
内容で分けられたのではない。➡区切りは中途半端。
- 内容 …サムエル記の続編。  
歴史からの教訓を後世のイスラエルに遺すもの。

## 聖書は本来、巻物だった

- サムエル記、列王記、それぞれ一つの巻物だった。モーセ五書は、本来一つの書。一つの巻物だった。
- 巻物と冊子の大きな違いは？
  - ★巻物 … 最初から順を追って読むしかない。  
→ **著者の意図通り**の読み方に。
  - ★冊子 … 拾い読みができる。検索ができる。  
→ **読み手の意思**で自由に読める。
- 3～4世紀には**冊子**が主流に。
  - 技術革新による読み方の変化  
教会における**比喩的解釈**の浸透にも影響？！

巻物を読むよりも  
聖書を読んでみよう



列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア	
	2〜13章	預言者エリシャ			
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王  
★南王国は1王朝に20人の王

即位	1章	アドニヤの謀反 ナタンの忠告 動いたダビデ ソロモンの即位
基盤固め	2章	ダビデの遺言・死 アドニヤの陰謀・死 ヨアブの死 シムイの処刑
知恵	3章	ギブオンでのいけにえ 神の応答 ソロモンの願い ソロモンの裁き
繁栄	4章	ソロモンの政権 行政区 王国の繁栄 ソロモンの知恵
神殿建設	5～8章	職人、労働者 神殿の構造 祭具の構造 神殿の完成 神殿奉獻
名声	9～10章	ソロモンへの神の約束 建設事業 その他の業績 シェバの女王 栄華
背教と死	11章	ソロモンの背教 神の裁き 外的の出現 内的の台頭 ソロモンの死



# イスラエルの王の系譜

## サウル～ダビデ

- 神の時ではなかったが、民の希望で立てられたのが、**サウル王**。主に背き、王権を剥奪された。苦闘の末、ペリシテ人に討たれた。
- 羊飼いいエッサイの8番目の子**ダビデ**を、神は王に定め油注いだ。武勇で名を馳せるが、**サウル**に嫉まれ、荒野で逃亡生活を送った。
- **ダビデ**は、**サウル**亡き後、まず同族ユダの王を7年務め、全イスラエルの王となってから、33年治めた。
- **ダビデ**は、**エルサレム**を都とし、周辺国を平定。王国の礎を築いた。**神殿**の設計図を記し、建材を準備、祭司を組織した。



# Ⅰ. 晩年のダビデ アドニヤの謀略 Ⅰ 列王記1章1～27節

旧市街・ダビデの塔

## 【老いたダビデ】 | 列王記1:1~2

ダビデ王は年を重ねて老人になっていた。そのため衣をいくら着せても温まらなかった。

家来たちは王に言った。「王のために一人の若い処女を探し、御前に仕えて世話をするようにし、王の懐に寝させて王が温まるように\*いたしましょう。」

\*当時、よく行われていた慣習だった。

■享年70歳。

死期を間近に、勇士ダビデの肉体も老いていた。



## 【アビシャグ】 | 列王記1:3~4

こうして彼らは、イスラエルの国中に美しい娘を探し求め、シュネム人の女アビシャグ\*を見つけて、王のもとに連れて来た。

この娘は非常に美しかった。彼女は王の世話をするようになり、彼に仕えたが、王は彼女を知ることがなかった\*。

\*シュネムは、タボル山のふもと。

アビシャグ …“わが父は放浪者”

\*性的関係を持つことはなかった。

➡ダビデの衰えがよく分かるエピソード



## 【アドニヤの野心】 | 列王記1:5～6

ときに、ハギテの子アドニヤ\*は、「私が王になる」と言って野心を抱き、戦車、騎兵、それに自分の前に走る者五十人を手に入れた。

彼の父は、「おまえは、どうしてこんなことをしたのか」と言って、彼のことで心を痛めた\*ことは一度もなかった。そのうえ、彼は非常に体格も良く、アブサロムの次に生まれた子であった

\*アドニヤ …“わが主はヤハウエ”

\*父を悲しませたことがない。➡優等生だった？

■優等生で、体型もよく、上の兄3人は死去。

➡人の目で見れば、王の条件は揃っていた。

ダビデ自身にも  
曖昧さが残ってた？



## 【アドニヤ側vsダビデ側】 | 列王記1:7~8

彼がツェルヤの子ヨアブ\*と祭司エブヤタル\*に相談をしたので、彼らはアドニヤを支持するようになった。

しかし、祭司ツアドクとエホヤダの子ベナヤと預言者ナタン\*、それにシムイとレイ、およびダビデの勇士たちは、アドニヤにくみしなかった。

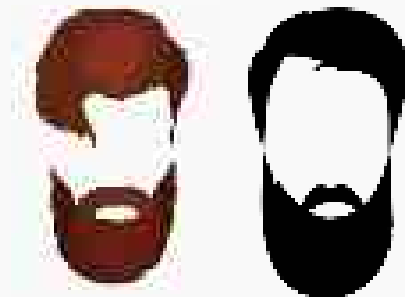
\*残忍だが優秀な将軍ヨアブ

\*サウルに虐殺されたノブの町の祭司の生き残り。

\*ナタン …重大な場面でダビデに忠告した預言者。

■将軍と祭司の一人を味方に。 ➡王国を二分する勢力。

### アドニヤ側



将軍  
ヨアブ

祭司  
エブヤタル

### ダビデ側



預言者  
ナタン

祭司  
ツアドク

## 【アドニヤの計画】 | 列王記1:9~10

アドニヤは、エン・ロゲル\* の近くにあるゾヘレテの石\*のそばで、羊、牛、肥えた家畜をいけにえとして献げ、王の息子たちである自分のすべての兄弟たちと、王の家来であるユダのすべての人々を招いた。

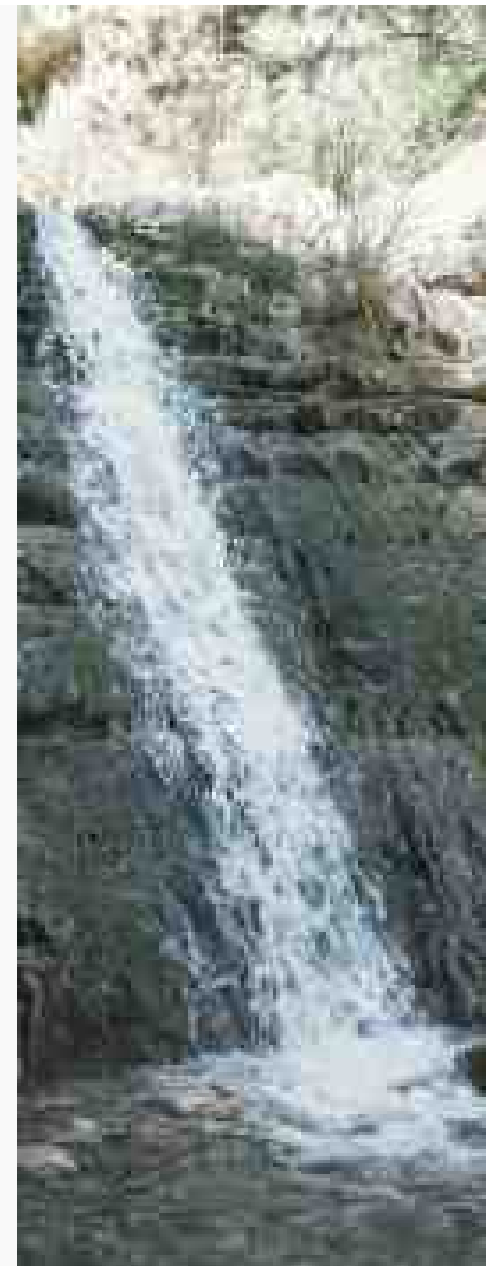
しかし、預言者ナタン、ベナヤ、勇士たち、そして自分の兄弟ソロモンは招かなかった。

\*“満ちた泉” …エルサレム近郊の町。

\*“蛇の石”

■ソロモン以外の兄弟たちに王位を認めさせた。

狡猾に、用意周到に、王位奪取を準備するアドニヤ



## 【動くナタン】 | 列王記1:11~12

そこで、ナタンはソロモンの母バテ・シェバにこう言った。「われらの君ダビデが知らないうちに、ハギテの子アドニヤが王になったことを、あなたは聞いていないのですか\*。

さあ今、あなたに助言をしますから、自分のいのちと、自分の子ソロモンのいのちを救いなさい。

\*“聞いていないのですか”が、文頭。

➡ナタンの切迫感が伝わる。

■今動かなければ、ソロモンの命は危うい。





## 【ナタンの助言】 | 列王記1:13～14

「すぐにダビデ王のもとに行って、『王様。あなたは、このはしのために、「必ずあなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に就く」と誓われたではありませんか。それなのに、なぜアドニヤが王となったのですか』と言いなさい。

あなたがまだそこで王と話している間に、私もあなたの後から入って行って、あなたのことばが確かであることを保証しましょう。」

- ソロモンがダビデの後継であることは、周知の事実ではあるが、まだ公には宣言されていなかった。



隙を狙った  
アドニヤ

## 【王とバテ・シェバ】 | 列王記1:15~17

バテ・シェバは寢室の王のもとに行った。王は非常に年老いていて、シュネム人の女アビシャグが王に仕えていた。

バテ・シェバがひざまずいて、王に礼をすると、王は「何の用か」と言った。

彼女は答えた。「わが君。あなたは、あなたの神、【主】にかけて、『必ずあなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に就く』と、このはしためにお誓いになりました。

■ 主の名による誓いに訴えるバテ・シェバ



## 【バテ・シェバの訴え】 | 列王記1:18~19

それなのに今、ご覧ください、アドニヤが王となっています。王様、あなたはそれをご存じではないのです。

彼は、雄牛や肥えた家畜や羊をたくさん、いけにえとして献げ、王のすべてのお子様と、祭司エブヤタル、それに軍の長ヨアブを招いたのに、あなたのしもべソロモンは招きませんでした\*。

\*ソロモンを明確に排除したアドニヤ。

➔ソロモンへの対抗意識と野心が露わに。



## 【ソロモンの危機】 | 列王記1:20~21

王様。王様の跡を継いで王座に就くのはだれと告げられるのかと、今や、全イスラエルの目はあなたの上に注がれています。

このままですと、王様のご先祖とともに眠りにつかれるとき、私と私の子ソロモンは罪ある者と見なされる\*でしょう。」

\*王への反逆者として殺されるということ。

■ 古代において、王権についた者が、他の継承権を持った者を殺すのは珍しいことではなかった。



## 【ナタンの来訪】 | 列王記1:22～24

彼女がまだ王と話しているうちに、預言者ナタンが入って来た。

家来たちは、「預言者ナタンが参りました」と言っ  
て王に告げた。彼は王の前に出て、地にひれ伏し、  
王に礼をした。

ナタンは言った。「王よ。あなたは『アドニヤが私  
の跡を継いで王となる。彼が私の王座に就く』と  
おっしゃったのでしょうか。」

■ 王の**決断**を促す、疑問からの強い呼びかけ。

➡ 王位継承に関し、曖昧な態度の余地はない。



## 【ナタンの報告】 | 列王記1:25

実は今日、彼は下って行って、雄牛や肥えた家畜や羊をたくさん、いけにえとして献げ、王のお子様すべてと、軍の長たち、そして祭司エブヤタルを招きました。彼らは彼の前で食べたり飲んだりしながら、『アドニヤ王、万歳\*』と叫びました。

\*支持者に、すでに王と呼ばせているアドニヤ。

■ アドニヤは即位を既定事実にしようとしており、ことは切迫していると告げるナタン。



## 【ナタンの訴え】 | 列王記1:26~27

しかしあなたのしもべのこの私や、祭司ツアドク、エホヤダの子ベナヤ、それに、あなたのしもべソロモンは招きませんでした。

このことは、王から出たことなのですか\*。あなたは、だれが王の跡を継いで王座に就くのかを、このしもべに告げておられません\*。」

\*直接の提言はせず、あくまで王の言葉を待つナタン。

\*公に宣言すべきである、という強い促し。

**次の王を決めるのは、王自身でなければならない**





## II. ソロモン王の即位

Ⅰ 列王記1章28～40節

ダビデの町・シロアム



## 【ダビデ王、動く】 | 列王記1:28～29

ダビデ王は答えた。「バテ・シェバをここに。」  
彼女が王の前に来て、王の前に立つと、王は誓って  
言った。「【主】は生きておられる。主は私のたまし  
いをあらゆる苦難から贖い出してくださった。」

■ 危機を認識し、奮い立つダビデ。

➔ まず口にしたのは、主への信仰告白。

罪とゆるし。永遠の王座、永遠の救い。

信仰により恵みにより、ダビデは救い出された。



## 【王の決断】 | 列王記1:30

「私がイスラエルの神、【主】にかけて、『必ずあなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私に代わって王座に就く』とあなたに誓ったとおり、今日、必ずそのとおりにしよう。」

バテ・シェバは地にひれ伏して王に礼をし、そして言った。「わが君、ダビデ王様。いつまでも生きられますように。」

- ダビデの王としての実行力は健在だった。  
変わらない王の威厳を前にひれ伏すバテ・シェバ。



## 【ダビデの命令】 | 列王記1:32～33

それからダビデ王は「祭司ツアドクと預言者ナタン、それにエホヤダの子ベナヤをここに呼べ」と言った。彼らが王の前に来ると王は彼らに言った。「おまえたちの主君の家来たちを連れて、私の子ソロモンを私の雌ろば\*に乗せ、彼を連れてギホン\*へ下れ。」

\*戦車と軍馬を引き連れていたアドニヤとは対照的。

ろばは、平和の象徴。（“らば”とも。このみの語）

\*ダビデの町の泉。後にシロアムに水を引いた。

■ソロモンは、名の通りの“**平和**”の王とされる。



## 【ダビデの宣言】 | 列王記1:34~35

祭司ツアドクと預言者ナタンは、そこで彼に油を注いでイスラエルの王とせよ。そうして、角笛を吹き鳴らし、『ソロモン王、万歳\*』と叫べ。

それから彼の後に従って上れ。彼は来て、私の王座に就き、私に代わって王となる。私は彼をイスラエルとユダの君主に任命する。」

\*“ソロモン王、あれ(ハーヤー)”

→“わたしはある”という主によってあれ!!

■王位継承についての王の公式の宣言がされた。



## 【王への祝福】 | 列王記1:36～37

エホヤダの子ベナヤ\*が王に答えて言った。「アーメン。王の神、【主】も、そう言われますように。

【主】が王とともにおられたように、ソロモンとともにいて、その王座を、わが君ダビデ王の王座よりもすぐれたものとされますように。」

\*三十勇士の一人。異邦人部隊の長。

ヨアブに対抗できる唯一の武人。後に将軍に。

■イスラエルを代表しての祝福の言葉。

すでに将軍としての働きをしているベナヤ。



## 【ギホンに下るソロモン】 | 列王記1:38

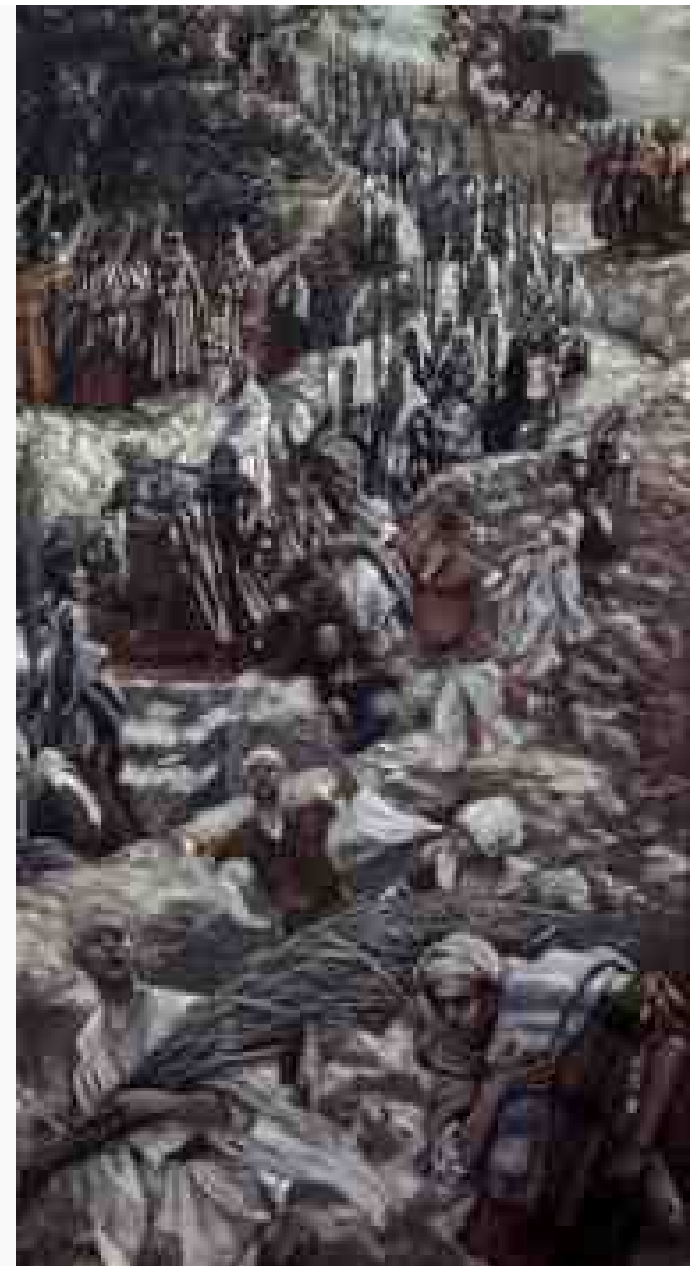
そこで、祭司ツァドク、預言者ナタン、エホヤダの子ベナヤ、それにクレタ人とペレテ人\*が下って行き、ソロモンをダビデ王の雌ろばに乗せ、彼を連れてギホンへ行った。

\*ベナヤが率いる異邦人部隊。

ずっとダビデに忠実に従ってきた。

■ギホンに下るソロモンとダビデの重鎮たち。  
次代の王とその家臣たちのお披露目でもある。  
この時点ですでに、公式行事に。

➡エルサレムの衆目の中での儀式。



## 【ソロモンへの油注ぎ】 | 列王記1:39~40

祭司ツアドクは天幕の中から油の角を取って来て、**ソロモンに油を注いだ\***。彼らが角笛を吹き鳴らすと、民はみな、「ソロモン王、万歳」と言った。

民はみな、彼の後に従って上って来た。民が笛を吹き鳴らしながら、大いに喜んで歌ったので、**地がその声で裂けた\***。

\*正式な油注ぎ。神の霊によって王とされた。

\*まさに神の臨在が現れた。

➡沸き起こった歓喜の声。響き渡る角笛の音。



### Ⅲ. アドニヤの敗退

Ⅰ 列王記1章41～53節





## 【一方のアドニヤ】 | 列王記1:41~42

アドニヤと、彼とともにいた客はみな、食事を終えたとき、これを聞いた。ヨアブは角笛の音を聞いて言った。「なぜ、都で騒々しい音\*がするのか。」

彼がまだそう言っているうちに、祭司エブヤタルの子ヨナタン\*がやって来た。アドニヤは言った。

「入れ。おまえは勇敢な男だから、良い知らせを持って来たのだろう。」

\*主に背く彼らには、騒々しい音でしかない。

\*都の見張りをしていたのだろう。



## 【報告】 Ⅰ 列王記1:43～45

ヨナタンはアドニヤに答えた。「いいえ、われらの君、ダビデ王はソロモンを王とされました。

ダビデ王は、祭司ツアドク、預言者ナタン、エホヤダの子ベナヤ、それに、クレタ人とペレテ人をソロモンにつけて送り出されました。彼らはソロモンを王の雌ろばに乗せ、祭司ツアドクと預言者ナタンが、ギホンで彼に油を注いで王としました。こうして彼らが喜びながら、そこから上って来たので、都が騒々しくなったのです。あなたがたが聞いたあの物音がそれです。



## 【報告】 Ⅰ 列王記1:46～48

しかも、ソロモンはすでに王の座に就きました。

そのうえ、王の家来たちが来て、『神がソロモンの名をあなたの名よりもすぐれたものとし、その王座をあなたの王座よりも大いなるものとされますように』と、われらの君、ダビデ王に祝福のことばを述べました。すると、王は寝台の上でひれ伏されました。

また、王はこう言われました。『イスラエルの神、【主】がほめたたえられるように。主は今日、私の王座に就く者を与え、私がこの目で見えるようにしてください。』」

**誰の目にも疑う余地なく、ソロモンが王に!!**



## 【恐れおののくアドニヤ】 | 列王記1:49～50

アドニヤの客たちはみな身震いして立ち上がり、それぞれ帰途についた。

アドニヤもソロモンを恐れて立ち上がり、行って祭壇の角をつかんだ\*。

■ 一気に酔いも覚めたか。ダビデがこれほど迅速に動くとは考えてもいなかっただろう。

\* 過失致死の場合、逃れの町に行けば刑を免れた。

祭壇も、逃れの場とされていた？ 無実の訴え。

→ ただし、有罪なら無効。(出21:13～14)

神が立てた  
王への侮りが  
滅びを招く



## 【求められた最初の裁定】 | 列王記1:51

そのとき、ソロモンに次のような知らせがあった。「アドニヤはソロモン王を恐れ、祭壇の角をしっかりと握って、『ソロモン王がまず、このしもべを剣で殺さないと私に誓ってくださいるように』と言っています。」

- ソロモン王に、裁定すべき最初の事案が。
- 政敵アドニヤをどう取り扱うのか。
  - ➔ ここで問われるのは、王の治世の**方向性**。  
王としての**資質**。



## 【ソロモンの裁定】 | 列王記1:52～53

すると、ソロモンは言った。「彼が立派な人物であれば、その髪の毛一本も地に落ちることはない。しかし、彼のうちに悪が見つければ、彼は死ななければならない。」

それから、ソロモン王は人を遣わして、アドニヤを祭壇から降ろさせた。アドニヤが来てソロモン王に礼をすると、ソロモンは彼に言った。「家に帰りなさい。」

■ ソロモンは、**平和の王としての寛容さと主の律法の下での厳格さ**を見事に示した。



A photograph of a person from the chest up, wearing a white dress shirt and a striped tie. They are blowing into a dark, curved horn. The background is a dramatic sky at sunset or sunrise, with warm orange and yellow light on the left transitioning to a cooler blue and purple on the right. The person's face is not visible.

## IV. まとめと適用

時を逃さず動くために  
主の御声を聴きとってしよう

## 【ダビデの決断に学ぶ】

- 体力も衰え、気力も萎えていたであろうダビデ。  
重大な決断には、全身全霊で力を注がなければならない。  
ダビデの老いが、王任命の決断を遅らせていたのだろうか。
- 緊迫した事態を知り、即断即行、迅速にことを起こしたダビデ。  
往年のような姿は、最後の力を振り絞ってのことだろう。  
→何よりこれは、**主の御心に沿った決断**。主が力強く後押しされた。
- ベストと程遠い状態で、重大な決断や行動を求められる時がある。  
**主がなされたことなら、主が必ず力をくださる。主に信頼しよう。**



## 【先の見えない危機の時代に】

- クリスチャンにとっての人生最大の課題は、何だろうか？  
それは、自分の満足や、世の評価、人の評判とは異なるもの。  
→ **主に与えられた使命**に生き、与えられた人生を走り抜けること。
- 主イエスの警告では、疫病は当然起こる災いの一つでしかない。  
唯一確かな近い将来は、世界的な人口減、人類全体衰退の始まり。  
栄枯盛衰を繰り返してきた人類は、未体験のゾーンに突入する。
- 誰にも分からない時代に、ますます求められるのは、**主への従順**。  
主に従う者は、主に聞く。**聞き従う**とは、二つで一つのこと。

## 【ダビデに学ぶ、危機の時代の歩み方】

- ダビデは、ひたすら**主に従順**に歩んだ人だった。  
大きな過ちも犯したが、その**信仰の歩み**を止めることはなかった。
- 力衰えても、ダビデの**信仰**は、なお強く燃え続けていた。  
危機に際してダビデを突き動かしたのは、**信仰の力**に他ならない。
- コロナ禍であぶり出されたのは、一人一人の**主との関係**。  
立派な会堂も名説教も、わたしの信仰を保証してはくれない。  
信仰は他者と比べても無意味。問われるのはただ、**わたしの信仰**。  
主を信頼し、御言葉に聞き従おう。さらに増している**聖書の重み**。

## 【求められるのは、ただ一つの信仰】

- 妙案などない。画期的な方法などない。新しい教えに惑わされるな。私たちにはただ、変わらない、**一つの信仰**があるだけだ。
- “わたしの罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された”、生きておられる主イエスへの信仰。
- ただ信じ抜くこと、この**福音**で、己の人生を貫き通すこと。この世のどんな危機も、主のご計画を妨げることはできないから。

**御言葉の学びを深め、主に堅く立ち、主に聴き、従い通そう。**

## ■ ソロモンの箴言1章7節, 32~33節 ■

【主】 を恐れることは知識の初め。愚か者は知恵と訓戒を蔑む。

浅はかな者の背信は自分を殺し、愚かな者の安心は自分を滅ぼす。

しかし、わたしに聞き従う者は、安全に住み、わざわざを恐れることなく、安らかである。」

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、  
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、  
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、  
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。  
ますます混迷(こんめい)を深める時代にあって、  
わたしはただ、主に信頼(しんらい)します。  
主への信仰(しんこう)が、わたしの力、おそれるものはありません。  
聖書のみことばを、主の命そのものとして 味わわせてください。  
ただ主に従(したが)う者として、与えられたこの人生を  
貫(つらぬ)き通すことが できますように。  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」